【おじちゃんサンタのプレゼント】

H24年11月

・「えっ、一人に一冊づつ!!」と、ちょっとおどろきました。一家庭に一冊でもありがたいのに・・・でも、家に帰って一人一冊の意味がわかりました。帰って早々、夕食もとらず「おじちゃんせんせいの本読んで、読んで」と子ども達。一人の絵本を手に取り2人の子どもに読み聞かせ。読み終わり「さあ、食事」と、立とうとするともう一人が自分の持っていた絵本を見せて「今度はみれね」と言う。私には同じ絵本でも子ども達には、それぞれの絵本なんだなと気付かされました。双子なので、ついつい同じものは1つでいいんじゃないと考えがちな私。この絵本をいただいたことで、子ども目線に立つという大切な事に気づくことができました。いただいた絵本は、それぞれ子どもが巣立つ時、持たせてやりたいと思います。

・素敵な絵本ですね。読んでいくうちに、いろいろな事を思い出しました。たくさんの人にぜひ読んでもらいたい。

・手に取ってみると「ああ やっとできた」という思いと、「早かったなぁ」という思いがあり、おじちゃんの思い出や市川先生からの絵本製作の経過報告の姿が走馬灯のようにかけめぐってきました。そして、おじちゃんとの大切な思い出をこんなに素敵な絵本にしていただけて、感謝の気持ちでいっぱいです。

・山本先生の講演会も聞いたので、いつも以上に絵がきになり、よ～くみてたら、小さなバッタがいたり、発見があっておもしろいです。

・心暖まる絵本を有難うございました。さっそく家に帰ってから、おばあちゃんも交えてみんなで読みました。

・ときおり「クスクスッ」と笑いながら、楽しそうに読んでいました。

・お気に入りの一冊となったみたいです。お兄ちゃんも聞いていて、読み終わると「あーだから保育園は花がいっぱいあるんだね」とはなしていました。

・あとがきを読んでいたらまたおじちゃんの姿がよみがえってきて目頭が熱くなりました。本当に不思議ですが、おじちゃんがいつまでも心の中に生きています。このすてきな本によりおじちゃんの心が世界に飛び立ってくれると信じています。

・おじちゃんの様にやさしい本で、おじちゃん先生の存在の大きさをあらためて実感しました。

・夜寝る前に蒲団の中で読みました。美喜もじっと聞いていて「みきも赤ちゃんの時、おじちゃんにいっぱいだっこしてもらったよ」となつかしそうに云っていました。これから大きくなっても美喜の心の中にやさしいおじちゃんがいてくれると思います。

・涙が出てきました。本を手にしたよろこびと、おじちゃん先生の心の大きさを強くかんじました。二人とも大好きな本でけいたくんをしゅうへいくんにして読むと、すごくよろこんで空に手をふって、おじちゃんに伝えていました。